



鳥取県鳥取市を本拠に、パチンコ・スロット店を経営する三洋商事。三洋商事はサンヨーグループの中の一企業です。他にも、ボウリング場、飲食店、環境リサイクル事業、不動産開発、ホテル事業など、幅広い事業を展開するサンヨーグループ。ちなみに、1945年（昭和20年）の創業以来、グループを引っ張ってきた社長の玉川政一さんは、全日遊連の他、

駅伝から花火大会まで「みんなしあわせに」の理念

三洋商事・サンヨーグループ

「みんなであわせになろう」がグループのテーマです。誰にもわか

てきました。

業界団体の要職を務めた「大物」として有名です。グループはもとより、半世紀以上にわたり、業界全体の浮沈と苦楽をともし

事長その他、遊連の副理事長、業界団体の要職を務めた「大物」として有名です。グループはもとより、半世紀以上にわたり、業界全体の浮沈と苦楽をともし

▼サンヨーグループの特別協賛で開かれる米子-鳥取間駅伝 =2011年11月13日 日本海新聞掲載



りやすく、含蓄が深そう。いかにも苦労人の玉川氏の率いる企業グループならではのです。そんなサンヨーグループの掲げるテーマの「しあわせ」の1つが「社会のしあわせ」。社会貢献の精神もこのあたりから生まれます。

毎年秋、2日間の日程で米子市、倉吉市、鳥取市を結んで行われる大会イベント、「米子-鳥取間駅伝競走大会」。作年で「第66回」を数えるこの大会は、県内で最も古い歴史と伝統を誇る陸上競技大会で、鳥取県民にとっていまではなくてはならない晩秋の風物詩。大勢の県民が沿道に並んで、それぞれのひいきのチームに声援を送ります。大会の主催は鳥取陸上競技会と新日本海新聞社。サンヨーグループは、毎回、唯一の「特別協賛企業」となっています。

直近の「第66回」大会は、2011年11月12、13の2日間、870人、

▲駅伝総合優勝の自衛隊米子代表に優勝旗を手渡すグループの辻広幸常務 =2011年11月15日 日本海新聞掲載



58チームが参加して行われました。総合優勝は、終始リードを保った自衛隊米子チーム。グループの辻広幸常務から優勝旗が手渡されました。今年もむろん開かれます。

身障者スポーツの振興にも、サンヨーグループは力を入れています。「鳥取さわやか車いすマラソン&湖山池ハーフマラソン」。鳥取身障者スポーツ協会や鳥取陸上競技協会の主催するこの大会は、障害のある人もない人も男女年齢を問わず同じ距離に挑戦し、互いの理解と親睦を深め、心のバリアを取り払おうという「ノーマイゼーション」の理念を広めるのが目的。また、毎年開かれるこの大会はすでに23回を数え、身障者スポーツの祭典として、各界の高い評価を受けています。サンヨーグループは、むろんここでも大きな支援を行なっています。



▲鳥取さわやか車いすマラソン =2010年9月14日 日本海新聞掲載

地域社会への社会貢献の他にも、様々な形での社会貢献を行なっています。東日本大震災に関しては、グループ各店に呼びかけ、来店のお客様、グループ従業員から募金を募り、これまで3回に分けて、地元新聞社などを通じて被災地支援を行いました。「みんなであわせになろう」グループの理念が、しっかりと生かされています。

大震災でも広く呼びかけ

極めつけは、鳥取市の夏の夜空を飾る大花火で知られる「市民納涼花火大会」。毎年お盆の時期に10日間にわたって開かれる「鳥取しゃんしゃん祭」のフィナーレを飾るこの花火大会は、地元鳥取市民はもちろんお盆で帰省した県外在住の鳥取出身者の絆を深める、年に一度の大イベントです。10数万人の市民が参加するとも。サンヨーグループはむろんここでも毎年主要なスポンサーとして、大きな社会貢献を行なっています。



▲鳥取の夏を彩る第58回市民納涼花火大会 =2011年8月17日 日本海新聞掲載